

2020年度第1回 医療法人社団主体会倫理委員会 会議記録の概要	
開催日時	2020 年 4 月 6 日 16 時 ~ 16 時 30 分
開催場所	小山田記念温泉病院 図書室
出席委員	毛受、森、北村、原、山中、伊藤、浅野、清水、坂 (敬略称、順不同)
新規研究計画の審議	
申請者	長谷川 紋香
研究名	保護者と療育職員が実施する日本語感覚プロフィール評価結果の相違点
研究内容 要旨	日本版感覚プロフィールの感覚特性の評価結果を保護者と療育職員で比較し、活動場面の違いによって相違が生じやすい感覚器を明らかにすることを目的とする。
審議結果	非承認
参考	全体的に文章がわかりにくい。 申請書の「相違しやすい感覚器」を「相違しやすい感覚特性」に改める。 説明書の「理事長」を「病院長」に改める。 「感覚特性の結果」を「感覚特性の評価結果」に改める。 「日本版感覚プロフィール」「日本版乳幼児感覚プロフィール」とは何かを 研究対象者(保護者、療育関係者)にわかりやすく説明する。
2020年4月6日以降に行われた書類審議の結果	
新規研究計画の審議	
申請者	小林 恵
研究名	看護師のコストに対する認識調査 ―医療材料への意識・知識―
研究内容 要旨	各看護師が医療材料のコストの意識・知識をもつことでコスト削減につながる と考えた。そこで当院における医療材料のコストに対する意識・知識の現状を 把握するために、「教育」「興味」「行動」に着眼し、アンケート調査を行い、医療 材料のコスト削減へ向け今後の課題を明らかにする。
審議結果	承認 2020-1
参考	「侵襲を伴わない研究であって介入を行わないものに関する審議」であり、 「心理的苦痛を伴わないアンケート調査」と考えられたので、書類審議を行 い、その結果承認とした。
新規研究計画の審議	
申請者	野呂 賢汰
研究名	当院回復期病棟入院患者における転倒者の特徴
研究内容 要旨	先行研究の転倒者の対象者を増やすことで入院中に転倒した方の入棟時評価か ら転倒因子を検討し、当院における転倒した患者様のより詳細な詳細な特性を 明らかにすることで転倒事故予防に繋げることを目的とした。
審議結果	承認 2020-2
参考	「侵襲を伴わない研究であって介入を行わないものに関する審議」であり、 「既存試料を用いて、集計・統計処理等を行うもの」であると考えられたの で、書類審議を行った。 研究等実施計画書の「痴呆性老人」を「認知症老人」に改めることを条件に、承認 とした。

新規研究計画の審議	
申請者	浅岡 和真
研究名	当院回復期リハビリテーション病棟における目標FIMと退院時FIMの差異発生状況に関する実態調査
研究内容 要旨	当院回復期リハビリテーション病棟において、目標FIMと退院時のFIMの差異発生状況の実態については明らかとなっていない。そこで、当院回復期リハビリテーション病棟における目標FIMと退院時FIMの差異発生状況の実態を調査する。
審議結果	承認 2020-3
参考	「侵襲を伴わない研究であって介入を行わないものに関する審議」であり、「既存試料を用いて、集計・統計処理等を行うもの」であると考えられたので、書類審議を行い、承認とした。
新規研究計画の審議	
申請者	平田 里佳
研究名	自宅退院後の内服管理について
研究内容 要旨	地域包括ケア病棟で退院支援に関わる中で、入院時に内服がきちんと出来ていない患者が多く内服管理に疑問を抱いた服薬管理支援を行う事で、退院後も継続して服薬できているのか調査した。
審議結果	承認 2020-4
参考	「侵襲を伴わない研究であって介入を行わないものに関する審議」であり、「心理的苦痛を伴わないアンケート調査」と考えられたので、書類審議を行い、その結果承認とした。
新規研究計画の審議	
申請者	宇佐美 博志
研究名	Computerized Adaptive Test による咀嚼能力検査法のシミュレーション的検討
研究内容 要旨	咀嚼能力の調査票による噛める食品の調査は簡便であるが、30～50食品の全てに回答する必要があり設問数の少ない評価法が望まれた。そこで、Computerized Adaptive Test (CAT)による咀嚼能力検査法を考案した。今回、咀嚼能力CATの妥当性と信頼性について、調査票による既存データを咀嚼能力CATに再入力し検討を行う。
審議結果	承認 2020-5
意見	医療法人社団主体会、社会福祉法人青山里会における職名も別紙様式第十五号に記載してほしいとの意見がありました。
参考	「侵襲を伴わない研究であって介入を行わないものに関する審議」であり、「既存試料を用いて、集計・統計処理等を行うもの」であると考えられたので、書類審議を行い、承認とした。

新規研究計画の審議	
申請者	中村 拓也
研究名	テニスのサーブ動作に着目した肩甲骨の動きの評価が肩障害・パフォーマンスに与える影響
研究内容 要旨	テニス選手における肩障害の予防には、実際のサーブ動作の各フェーズ(場面)における上肢と肩甲骨の連動した動きの評価(フェーズテスト)を行うことが必要と考えられるが、テニスにおいてフェーズテストは報告されていない。本研究では、フェーズテストと肩障害およびサーブパフォーマンスとの関係性を明らかにし、自主練習による効果を検討することを目的とした。
審議結果	承認 2020-6
意見	研究計画の概要を、大学病院医療情報ネットワーク研究センター臨床試験登録システム (UMIN-CTR)等の公開データベースに登録する必要がある。
参考	本来ならば委員会を開催して審議することが必要だが、コロナウイルス感染拡大の防止の観点より、書類を各委員に送付した上で、電話等で議論および質疑応答を行い、委員会開催にかえた。
新規研究計画の審議	
申請者	伊藤 卓也
研究名	脳卒中後上肢麻痺に対する上肢リハビリテーション支援システムロボットの効果検証
研究内容 要旨	今回、脳血管疾患患者の上肢機能の改善を目的に、回復期リハビリテーション病棟へ入院中の脳血管疾患患者に対して、上肢リハビリテーション支援システムロボットを用いた自主練習を行い、介入の効果について検証する。
審議結果	承認 2020-7
参考	本研究は鈴鹿医療科学大学、鈴鹿高等工業専門学校との共同研究であり、鈴鹿医療科学大学においてすでに倫理審査委員会の審査を受け、その実施について適当である旨の意見を得ていたため、当法人の倫理委員会では書類審議を行い、その結果承認とした。主体会病院における研究対象者から得られた情報等は、匿名化した上で鈴鹿医療科学大学に提供される。研究計画の概要は、大学病院医療情報ネットワーク研究センター臨床試験登録システム (UMIN-CTR)に登録される予定である。